



アメリカ留学日記 (1)

早稲田大学社会科学部 3年・Hope College に留学中

伊藤 直人



今月から3回限りではありますが、留学体験記を綴らせていただきます。皆さんどうぞよろしくお祈りします。

留学プログラム

私は、早稲田大学の TSA Program (派遣先と共同して作成されている Program) を利用して留学をしているのですが、各 TSA Program には、それぞれテーマが設けられています。私が派遣された Hope College では、最初の 1 学期を本キャンパスで過ごし、後期の学期を GLCA (Great Lakes Colleges Association) が運営している Philadelphia Center を利用して Internship Program を受けることになっています。私は、10 か月という短い留学期間でも、様々な体験ができることに惹かれて Hope College を選びました。実際に選んでみて、私は今現在まで不服を感じたことはありません。

Hope College

まず初めに、前学期 (9 月～12 月) の間、私は Hope College で留学期間を送っていました。Hope College は、Michigan 州の Holland (Chicago まで車で約 3 時間) にあるのですが、周りには特にこれと言って何もありません。とっても小さな田舎町とも言えはいいのでしょうか。

大学自体もそれほど大きくはなく、学生数は 3 千人弱と早稲田とは大きな違いです。各クラスの人数も多くて 40 人くらいで、数人のクラスもあります。学生の特色もはっきりしていて、約 8 割が白人で、宗教色が強く、週 3 回お祈りの時間が設置されています。

留学期間

私は、今まで海外での長期滞在の経験もなく、来た当初、自分の英語力に対して大きな不安を抱いていました。その中でも今までとはかなり異なる環境において適応できるかどうか不安の大きな要素を占めていました。

私は、寮生活を送っていたのですが、幸運にもルームメイトの Matt と打ち解けることができ、彼の助けもあって外国語でのコミュニケーションに対してそれほど大きな悩みを持つこともなく過ごして来ました。彼は今まで海外の友達と会ったことがないのにもかかわらず、彼の持ち前の社交性で自分とコミュニケーションを図ろうとしてくれました。最初のうちは、まともに会話もすることが出来なくお互い途方に暮れていたことを覚えています。

その後、会話も徐々に増えて行ったのですが、自身の英語力が上達したかどうかと言われると、疑問に感じます。なぜなら渡米する前、自分は全くといっていいほど、英語を話す機会がありませんでした。そのような自分が、4ヶ月間でどれだけ向上したのかは現在の自分は計ることができません。自分にとって、英語「しか」通じない環境に身を置くことは非常に苦痛なことでした。時々英語を使うことに毛嫌いを感じたときは、日本にいる友達や家族、そして現地の日本人に悩みをなるべく打ち明けるようにしていました。

ストレスを感じる時間を少なくするために、積極的にイベント、クラブ活動への参加、そして息抜きにジムに行ったり、映画を見に行ったりしていました。中でも 11 月 11 日に行われた "Images: A Reflection of Cultures" (海外からの学生が主体となって各国・各文化を様々な形で紹介するイベント) に日本代表として、参加したことは非常にいい経験になりました。日本からの交換留学生、大学に在籍中の日本人、そして現地に暮らしている日本人の子ども達と、総勢 30 名でソーラン節を披露しました。時間の合間を縫って練習をした甲斐もあって、本番が一番の出来だったと思います。さらに、現地の教育を受けて育っている日本人と交流することを通じて、彼らの積極性に驚かされました。これは、これまで日本で教育を受けてきて育ってきた自分にとっては真似しようとしても簡単にできることではないと感じました。



ソーラン節で日本を紹介